

# ベトナム子供基金通信

NO. 17 2001年6月23日

## ベトナム子供基金

〒113-8642

東京都文京区本駒込2-12-13

アジア文化会館内

TEL:03-3946-4121 (代)

FAX:03-3946-7599

電子メール:kodomo.kikin@nifty.com

## ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH

c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU

43D/46 Ho Van Hue, Phu Nhuan

Ho Chi Minh, Viet Nam

TEL:84-8-8477359 FAX:84-8-8477527

## 里子への手紙

清水 逸子

Tran Huy Truong (チャン・フイ・チュオン) 君へ

長い間、手紙を書かなくてごめんなさい。前回お知らせしたように、私の夫が亡くなって収入がないので、あなたへの支援ができなくなってしまいました。今回の送金でおわりにします。本当にごめんなさい。私の子供たちも、奨学金を受け、アルバイトをし、学費を免除していただいて、学校へ行っています。あなたもこれからずっと頑張ってください。

残念ながら、私があなたに手紙を書くのはこれが最後になってしまいます。

私は、外国の子供たちに里親として、お金を送り始めて、13年になります。なぜ私がお金を送ったかという、私は、世界中の子供たちが同じように、幸せになって欲しいと思ったからです。世界中の子供たち皆が、幸せになるには長い年月がかかるでしょう。そのためには、地球上から争いがなくなり、世界中が平和にならなくてはなりません。民族や宗教や思想の違いをのりこえて、お互いに理解しあい、認めあい、許しあって、仲良くなる必要があります。大きな、大きな、宇宙の中では、ゴミよりも小さいこの地球上で生

きている人類は、皆同じ地球人なのです。私は世界中の子供たちに、このことを知って欲しいのです。私と関わりあった子供たちが大人になった時、またその子供たちに教えてあげて欲しいのです。そしてまた、その子供たちが大人になった時に次の世代に教えてゆく。そのようにして世界中が平和になって、地球上の子供たちが皆同じように幸せになったら良いと思うのです。それが私の夢なのです。

そこであなたにお願いがあります。どうか私の夢がかなうように手伝って欲しいのです。できれば、あなたが大人になった時に、あなたの周りの人たちに私の話を伝えてもらえるとういのですが。そして、ベトナムの子供たちが、皆豊かな暮らしができるように、ゆくゆくは世界中が平和になるように努力してもらえたらと思います。あなた一人の力で実現はできないでしょうが、ほんの少しでも平和のために何かをしようと思える人になって欲しいのです。どうか、自分の富や地位のみしか考えない人ではなく、皆の幸せを願える人になってください。あなたはとても勉強を頑張っているそうなので、私は遠い国からあなたのことをずっと心の中で応援しています。

あなたとあなたの御家族の健康と、幸せをお祈りしております。

## 2000年 ベトナム子供基金 会計報告

(期間 : 2000年1月~12月)

収入

ベトナム子供基金	
基金	7,409,640
その他所得	50,843
収入計	7,460,483
前年度繰越金	9,932,734
計	17,393,217

支出

ベトナム子供基金	
奨学金 他	5,891,525
経費	2,043,268
支出計	7,934,793
次年度繰越金	9,458,424
計	17,393,217

収入

緊急支援	
基金	475,601
その他所得	22,912
収入計	498,513
前年度繰越金	1,745,830
計	2,244,343

支出

緊急支援	
基金	288,899
経費	18,720
支出計	307,619
次年度繰越金	1,936,724
計	2,244,343

(単位:円)

(単位:円)

### ベトナム子供基金・収入の内訳(2000年)

(単位:円)

	里親基金		一般基金		賛助金		合計	
	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額
1月	8	155,400	3	182,000	1	0	12	337,400
2月	4	75,400	2	24,000	0	0	6	99,400
3月	10	335,400	1	12,000	2	15,000	13	362,400
4月	7	116,000	1	10,000	2	2,740	10	128,740
5月	5	87,000	0	0	0	0	5	87,000
6月	64	1,403,700	19	256,000	10	61,000	93	1,720,700
7月	31	753,000	10	124,000	4	40,000	45	917,000
8月	13	279,000	3	39,000	3	151,000	19	469,000
9月	10	211,000	3	44,000	0	0	13	255,000
10月	14	259,000	3	60,000	1	300,000	18	619,000
11月	16	321,000	1	12,000	1	1,420,000	18	1,753,000
12月	26	580,000	3	60,000	4	21,000	33	661,000
	208	4,575,900	49	823,000	28	2,010,740	285	7,409,640

奨学生総数:471名 (小学生 85名、中学生 193名、高校生161名、大学生 32名)

### 緊急支援・収入の内訳(2000年)

(単位:円)

	参加者数	金額
1月	2	30,000
2月	0	0
3月	1	5,000
4月	0	0
5月	1	5,000
6月	8	72,301
7月	2	35,000
8月	1	10,000
9月	0	0
10月	2	11,000
11月	33	241,300
12月	12	66,000
合計	62	475,601

### 経費の内訳

(単位:円)

子供基金	科目	金額
	郵送費	345,220
	印刷費	118,443
	通信費	62,272
	備品購入	182,074
	給料手当	774,084
	交通費	414,787
	雑費	146,388
	合計	2,043,268

### 緊急支援

	科目	金額
	印刷費	12,600
	雑費	6,120
	合計	18,720

### 2000年度青葉奨学会会計報告(期間:2000年1月~2000年12月) 単位:USD

収入	科目	金額
	前期繰越金	1,410.22
	基金収入	40,705.03
	収入計	42,115.25

支出	科目	金額
	奨学金	36,504.00
	管理費	3,347.31
	支出計	39,851.31
	次期繰越金	2,263.94
	計	42,115.25

### 会計報告補足

ベトナム子供基金の支出5,891,525円の中には、ベンチャー小学校の修理(527,352円)と、ビンフック中学校の新規学校建設費用(1,008,450円)が含まれています。

しかしながら、青葉奨学会の会計報告にはそれらは含まれておらず、収入には奨学金と管理費用として送った分が反映され、支出のところは奨学金と管理費だけの数字です。

なおビンフック中学校の建設については、匿名の方のご寄付により、建設することができました。感謝いたします。

学校建設などにあたっての業者の選択については、学校を建設する地方の省・県などの教育課の推薦により、信頼できる地元の業者を選んでいるとのこと。入札は実施していませんが、価格・品質については、満足できるものが出来上がっているとの、青葉奨学会

からの報告です。

子供基金の経費の内訳のなかの「給料手当」には、ホーチミン市の青葉奨学会の駐在の脇平裕美さん(2000年1月から6月まで)高橋佳代子さん(2000年7月から12月まで)の給料手当が含まれています。

ホーチミン市の駐在者の給料については、青葉奨学会沖縄委員会、及び北陸ベトナム友好協会と当ベトナム子供基金の3グループで負担しております。全体の奨学生が増え、それに連れて駐在者の仕事量が増えているにもかかわらず、それに見合った給料を支払えずにいるのが、現状です。

なんとか解決しなければならない問題のひとつです。

# Gap Lai Nhe また会いましょう

高橋 佳代子

## 夜の街サイゴン

新しい家に引っ越してはや5か月が過ぎようとしていきます。

最初は中心区から離れてしまった事や、友人の家からも離れてしまい、寂しく感じたこともありましたが、「住めば都」ということわざのとおり、だんだんこの地区の市場や子供たちが好きになってきました。幸い職場まではバイクで10分という近距離になり、朝は随分楽になりました。

しかし、私の友人はほとんど1区、3区という中心地に住んでおり、ついつい話がはずむと夜の11時、12時を回る事も少なくありません。

皆さんもご存知のとおり、私の愛車は1979年製のホンダ「チャーリー」です。このバイクはみんなに「自転車よりも速いバイク」とからかわれるほど遅いのですが、それなりに愛着もわき、今では私の大切な足となっています。

そんなチャーリーで夜の街を駆け巡る楽しみを覚えたのは私がこの家に引っ越してからでした。

ベトナムはバイクの洪水といわれるほどバイクの数が多いのです。特にラッシュ時になるとすざましい渋滞が起り、交通警察が毎朝手旗信号で整備するほどです。そして人々はわれ先にと走るの、またまた大混乱し、特に車に乗っている人たちはもろにこの渋滞のどばちりを食ってしまうのです。そんな中でも特に渋滞の激しい通りが私の帰り道になる「レーヴァンシー」通りなのです。

この通りはそんなに広くないのですがなに

しろ交通量が多くてひどい時にはいつも1分で行けるところが10分かかってしまうのです。

そんな悪しき通りなのですが、夜になるとがらりと光景が変わります。特に11時を過ぎるとバイクの数が減り、天秤棒をかついだおばさんや、フォーやチューを売る屋台のおばさんたちが家路を急いでいます。また、シクロ（日本の人力車のような乗り物で庶民の足）の運転手たちの集団がガソリンスタンドに集まって眠りについていきます（彼らには家がないのだろうかといつも疑問に思っているのですが…）。

そして夜がふけてきたころ、カラオケやカフェは明るさを増してきます（カラオケができない私はよく事情がわからないのですが）。また、何故だかこんな時間に体操をする人も少なくありません。大きな麻袋を持ってごみ集めをする子供たちもよく見かけます。

中心区から私の家まで昼間は30分かかりますが、夜は15分、ひたすらこのレーヴァンシー通りを突き進みます。夜の街は涼しくて心地よい風が吹きますが少しだけ切ない時間です。（注意：夜の徒歩は危険ですからやめましょう）

2001年2月28日記



職場前にて愛車チャーリーと

●訂正：通信16号8ページ左段29行目「経済特別区」を「別世界」と訂正します。（編集部）

## 人情の街サイゴン その4

脇平 裕美

ベトナムの朝は早い。365日、例外なし。

日中は脳みそが溶けてしまいそうな南国、平日（月～土曜日）早起きして勉強や仕事に勤しむのは百歩譲ろう。なぜだか知らないが日曜まで同じように時は流れる。いや、ヘタしたら平日より早いような気さえする。早朝6時、寮に住む留学準備生たちはわざわざラジカセを外に向け、ベトナム演歌調ロックに合わせて体操を始める。それに負けじと再度眠りにつこうとすると、学生からの電話。こういう時はわざと迷惑そうに、眠そうに電話口に出る。

「もしもし」

「先生、おはようございます。お元気ですか？」

「はい、元気ですが眠いです」

「え？先生もう6時半です。遅いですねー」

「……。」

「先生、今日は暇ですか？今から遊びに行ってもいいですか？」

「……す、すみません。今日は忙しいですから、また今度、ね」

寝てたくせに。もちろん忙しくなくせに。そして私は再度眠りにつくのだ。

ま、これでもまだマンになった方である。なぜなら彼らの基本は“突撃訪問”だからだ。

電話の普及率の問題なのだろう、彼らは“とりあえず行ってみる→とりあえず待ってみる→ひたすら待ってみる→相手の不在を責める”のだ。しかし考えようによっては、この行動はなかなか風情のあるものではないか。事実私も、携帯電話などない現地で何度も何度もこのような状況に置かれ最終的に“待ち人来たらん”時には相手に抱き着かんばかり

の喜びを得られるコトを知ってしまっている。

また、これは「常に誰かが家にいる」のを前提に可能となる。たとえ本人がいなくても、本人そっくりの兄弟か両親が出迎えてくれ、

「もうすぐ帰ってくるから、お茶でも飲んで待っとき」と、よもやま話（たいていは珍しいニホンジンに質問攻め）をするうちに、気付いたら家族全員、いやいやヘタしたらご近所さんまでお知り合いになっているコトになる。しかも肝心の本人には会えない、なんていうオチまでついてくる。

話を元に戻そう。

6か月コースで始まった彼らを教え出してから5か月がたったところにホーチミン市内の新学期が始まることになり、私は市内のクラスを担当することになった。6か月ずっと同じ先生よりも、他の先生の日本語も聞いておいた方が、という配慮もあったのだろう。最後まで私が教えたかったが仕方がない。このころになるとみんなとのコミュニケーションにも問題がなくなり、あとは会社に入って首尾よく仕事をこなしてくれるのを祈るばかり。

そんなある日、私は休み時間にバドミントンやサッカーをしている彼らに気付いた。誰かがわざわざ持って来たのかな？

「これ、どうしたのですか？ 誰のですか？」

「私たちのです」

「????」

「上司の〇〇さんが買ってくれました」

と、にこにこ顔。

がーん。上司に休憩時間の遊び道具をねだる部下……。

どういう流れでこんな成功をおさめたのか見てみたいもんだと感心していた数日後、その上司の方がみんなのお給料を手渡しに教室にいらっしやった。緊張ぎみの彼らに1人ずつお給料を渡し、ランチ前ということもあつ

て簡単にお話をして帰ろうとした時だ。

「〇〇さん、一緒にお昼ご飯を食べませんか？」

と、一人の学生がその方を誘った。

「いやあ、ありがとう。でも今日はちょっと」

「そうですか。残念ですね」

と、本当に残念そうな顔を見せたのはつかの間だった。その直後、なぜかみんなにやにやしている。するとその方は、ああそうか、という表情で、

「はい、じゃあこれでみんなで昼ご飯を食べてください」

と、お札を数枚クラス長に渡した。もちろん自らのポケットから。

「わあ、ありがとうございます！」

拍手までおこる。なあるほど。こういう手口かあ。思わず納得してしまうが、自分が彼らにベトナム料理をごちそうしてもらいたい時の作戦と何ら違いはない、と気付きひとり笑いをする。この調子で彼らはお給料値上げもねだるのだろうか、彼らの笑顔に日本人が負けるのだろうか、それとも彼らから笑顔が消えてしまうのだろうか……。

こうして最後の授業もお互い泣きたいのをこらえて笑顔で無事終えた。再会の日に全員が楽しく働いていることを願いながら。

滞在6か月目からホーチミン市内のクラスのみを担当となり、通勤時間も長くて15分と短縮された。移動は愛車中国製ママチャリ。平坦な道なので、暑ささえなければ鼻歌でも歌えるぐらい楽勝だ。しかし油断禁物。この乗り物がくせ者なのだ。

まずブレーキがきかない。これはかなりスリリングである。でもこういう時は、靴の裏を道路に全面つけてザザーっと摩擦させて止まる「必殺・足ブレーキ」を使えば良い。

ま、靴底のすり減り具合を長期的に計算すると、さっさと修理した方が無難だが。

そして、ベトナムの自転車はよくパンクする。たかが2、3回のパンクではそう簡単にチューブを取り替えないからだ。道ばたには、チューブの穴をふさぐ職人のおいちゃんたちがスタンバっているので修理はお手軽にできる。しかし自転車というものはパンクしていても走れるもので、私自身気付かずに走っていることがよくある。でもここは人情の街サイゴン。振り向きざまに、「☆@&%\$！」と、タイヤを指して教えてくれる。しだいに私は、この人情に触れるまで修理に行かないようになっていた。

ある日、私は帰宅までの短い距離の間に2度も、後輪タイヤを指差してパンクのご指摘を受けた。こういうコトがある度にあったい気持ちになり、単純にもイヤなことはすべて忘れられる。そして家に到着。すると通りがかった学生から一言、

「ああ〜先生！ スカート、破れてますよおー！」

がーん。なんと、ロングスカートの裾が後輪に巻き込まれていたのだ。パンクではなかったのだ。がーん。私は決意した。「やっぱりベトナム語、勉強しよう」と。

一口に「ベトナム語勉強！」と言ってもこれがなかなか実現できない。不規則な時間割に合うような時間帯を自分で見つけなければならない上に、1学期毎（3か月）にこれまた時間割が変わってしまうのだ。それに困ったときは学生かベトナム人の先生について来てもらえばどんなコトでも解決できてしまう。これだけ言い訳がそろえばサボるには十分。

しかし、だ。自分の意思を伝えるのに人様のお力を借りるのはどうも悔しい。もちろん「喜」も「怒」も「哀」も「楽」も今のまま

で十分に表現できる。いや、むしろ「怒」はベトナム語を知らない方が表現しやすいかもしれない。でもこれでいいのか？ 自分にはそれだけで表現できてしまう感情しかないのか？ いや、「驚」も「疑」も「愛！」も伝えたい。そしてナマの声はやっぱりナマで聞きたいし、伝えたい。ようやく私は時間を見つけ、週2回勉強を開始することになった。

ただし、「予習・復習は一切しません。授業と準備で忙しいので」と、はじめに先生に断ってから。



## ベトナム点描 — トイレを拝借 —

中原 和夫

メコンデルタの中心都市カントー市からホーチミン市へ戻るとき、旅行社にタクシーを頼んだ。料金は45万ドン。この時の為替相場で約3500円であった。ホーチミンで何か所かの旅行社にカントーまでの車代を聞いたときは60~80ドルとのことだったので、今回は、非常に安いという感じがした。

出発当日の朝、約束どおり8時ちょうどに車は出発した。大変なボロ車だった。運転手は、ベトナム語しか話さないおじさんで、話がさっぱり通じない。

車は80~95 km/h でとばしにとばす。やがてロンアン省に入ったころ、このあたりでトイレを借りた方が良さそうだと思い、運転手のおじさんにベトナム語で話しかける。

ワタシ、コーヒーヲノミタイ。ワタシ「ニャーヴェーシン」ニイキタイ。

コーヒーの件は、すぐにわかったようだが、トイレのほうは、なかなかわかってもらえない。悪戦苦闘したあげくに、やっとわかって

もらえて、国道沿いの店に車を止めた。

運転手のおじさんの説明では、「ニャーヴェーシン」と発音するのであるとのことであった。

後で辞書を見たところ、「ニャーヴェーシン(Nha Ve Sinh=家衛生)」は独立便所のことで、家の中の便所は「フォンヴェーシン(Phong Ve Sinh=房衛生)」というのであるとあった。

コーヒー屋さん(何か他の物も売る店のようであったが)の裏にまわると、店と同じ建物の中にトイレ(とおぼしきもの)があった。小部屋の壁に沿って溝があり、むき出しの水道管が入り口側の隙間からのびていて、工場で使うような赤いハンドルの付いた弁につながっている。溝に向かって用を足した後に、その弁を開いて水を流すようになっている。

外へ出て気が付いたのだが、その水道管は、トイレの扉のすぐそばの食器洗い場に続いている。地面には、皿などをつけたままの洗い桶がおいてあり、その近くに水道の蛇口が取り付けられてあった。運転手のおじさんは、そこで手を洗い顔を洗っていた。私もそれにならった。

排水用の溝は、壁の下を通って隣のトイレの溝に直接つながっている。もちろん下水はトイレ側に流れ込む。

店の前に戻ると、コーヒーの用意がしてあった。小さなコーヒーカップの上に小さなステンレス製のフィルターが載っていて、しばらく待つ。湯がフィルターから出きったところで、氷入りのガラスコップにコーヒーを注ぐ。コンデンスミルクをどの時点で入れたのかは忘れた。この店での休憩時間は26分、料金は2人分で5000ドン(約38円)であった。

かくして無事にホーチミン市の宿に到着することが出来た。カントーの宿を出発してから4時間半の旅であった。

## 事務局より

ベトナム子供基金通信号外（2000年11月16日発行）及び通信16号（2001年3月15日発行）でみなさまにお願いしました「避難所兼学校」建設への募金は、5月末現在で約220万円になりました。総工費は約300万円ですので、引き続きみなさまの協力をお願いします。

実際の建設については、通信16号でお知らせしましたように、場所はロンアン省のトゥトゥア県に決定し、土盛りが終了しました。しかし土台を安定させるため、建設開始まで約6ヶ月の養生が必要とのことですので、建設開始は10月か11月くらいになる予定です。

この避難所兼学校建設については、「青葉奨学会」を支える「青葉奨学会沖縄委員会」、「北陸ベトナム友好協会」それに当「ベトナム

子供基金」の3グループが協力しております。

ホーチミンに駐在の高橋佳代子さんが、5月に休暇で一時帰国しました。休暇といいながら、ベトナム子供基金の運営委員会に出席いただいたり、ベトナムでのボランティア活動などについて質問をよせられた大学生たちにも積極的に会ってくれました。

本号に子供基金の振込用紙を同封させていただきます。今年まだお送りいただけていない方、この用紙をご利用下さい。既にお送りいただいている方、申し訳ありません。

緊急支援については用紙がございません。郵便局備え付けの用紙をご利用ください。

## ベトナム子供基金会員募集

里親基金 年額一口 20,000円	特定の「里子」に奨学金を支給する里親になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から子供の履歴票が届き、子供と手紙のやり取りができます。	会費納入は次のところをお願いいたします。  口座名義はいずれも「ベトナム子供基金」  郵便振替 00140-1-70399 銀行振込 富士銀行駒込支店 普通預金 1495745
一般基金 年額一口 12,000円	子供たち全体の「里親」という関係を想定しています。子供基金通信によって、会の運営、子供たちの様子等をお伝えします。	
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数等、いっさい自由です。	

「緊急支援」にご協力くださる方は次のところにご送金ください。

口座名義：ベトナム子供基金・緊急支援

郵便振替：00170-5-18054

銀行振込：富士銀行駒込支店 普通預金 1602525